

北海道におけるマダニ媒介感染症の発生状況

道内では例年、ライム病、回帰熱、ダニ媒介脳炎などのマダニ媒介感染症が発生し、2020年以降は年間30人以上の報告が続いており、2023年は回帰熱が例年よりも速いペースで報告されています。

例年秋シーズンにかけてはマダニ媒介感染症の増加がみられることから、感染予防対策について十分ご注意ください。

(参考：ダニ媒介感染症に関する情報)

・北海道ホームページ

<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/kst/20210922dani.html>

・厚生労働省ホームページ

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>

北海道におけるマダニ媒介感染症の発生状況

(2023年8月7日現在)

北海道立衛生研究所感染症センター

背景

- 第26週時点において、全国的にマダニ感染症の報告数が昨年以上のペースで増加しており、一部報道でもとりあげられている
- 北海道では例年、ライム病、回帰熱*、ダニ媒介脳炎などのマダニ媒介感染症の発生が認められる



今後の感染症対策に活用するため、
北海道内の第28週時点におけるマダニ媒介感染症の発生状況を取りまとめる

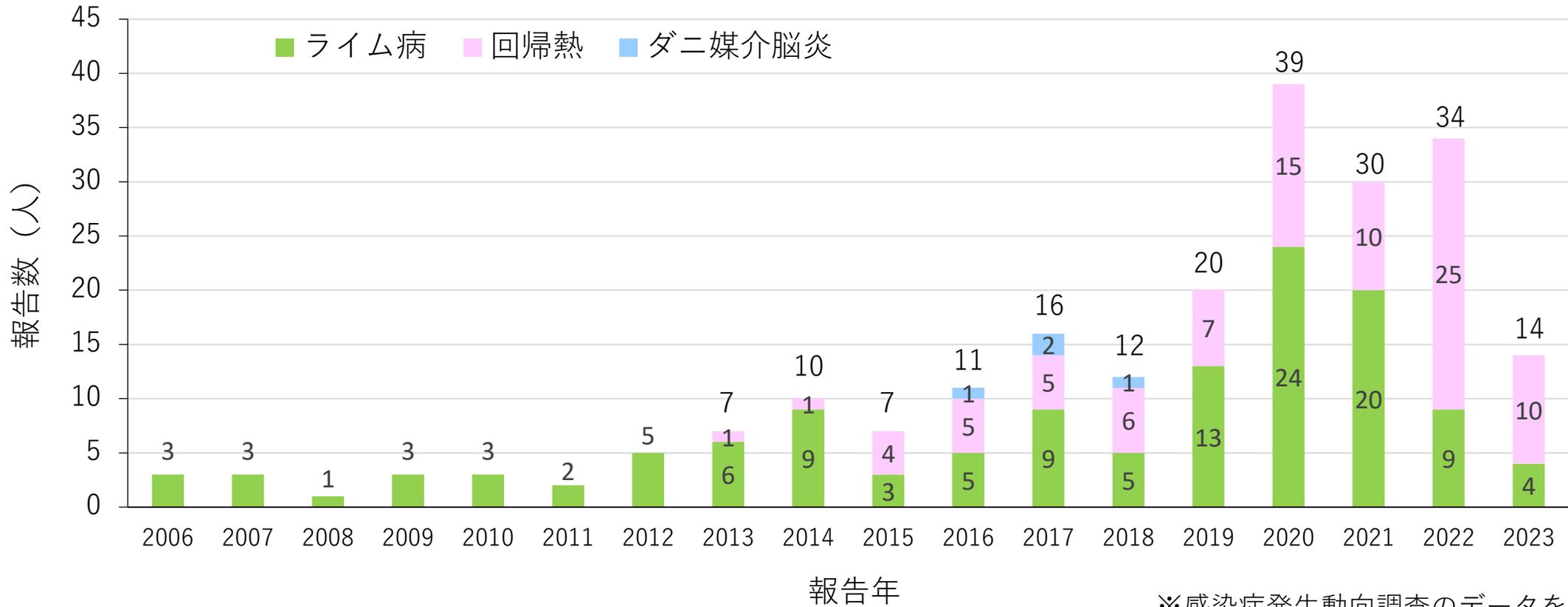
* 感染症法上の名称。道内では新興回帰熱（ボレリア・ミヤモトイ感染症）の発生が集積している。
以降、本資料中の回帰熱は新興回帰熱を示す。

ダニ媒介感染症とは？

- マダニはライム病・回帰熱・日本紅斑熱・ダニ媒介脳炎・重症熱性血小板減少症候群（SFTS）などの病気の原因となる病原体を保有していることがあり、咬まれることでこれらの病気感染することがある。
- 北海道内で過去に患者が確認されている主な病気の概要は下表のとおり。

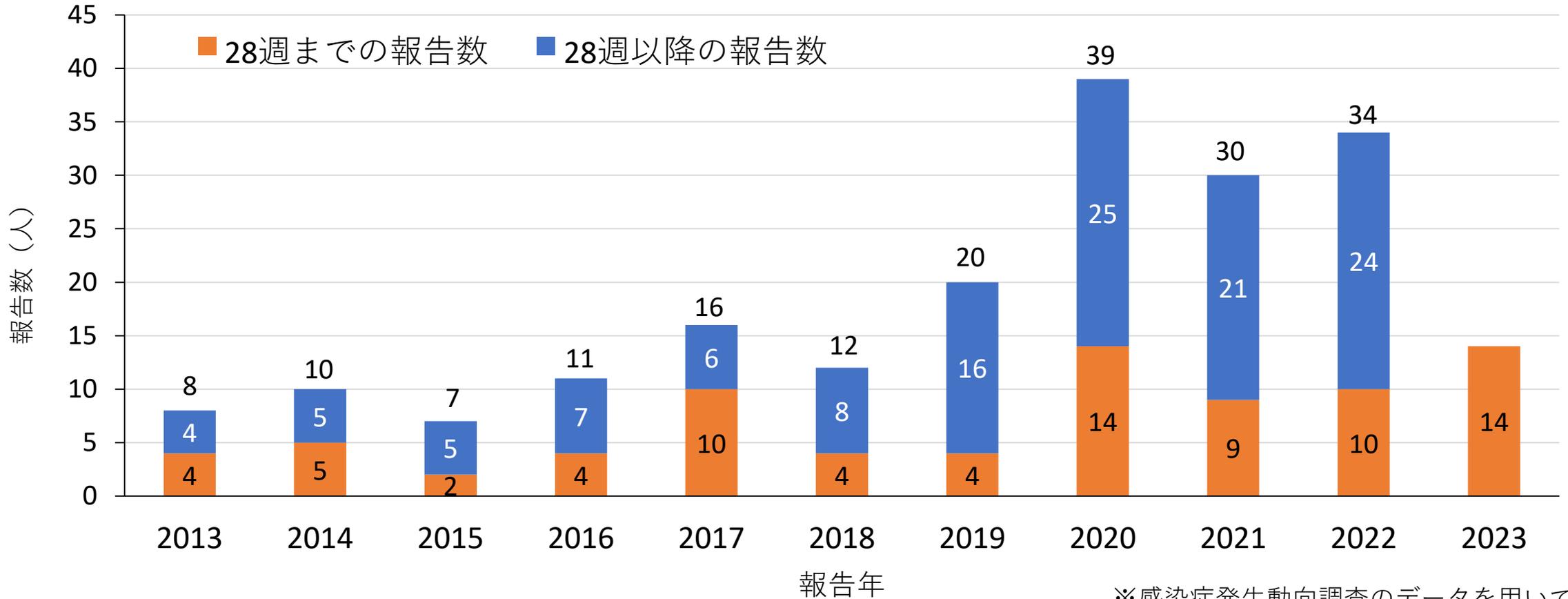
病名	潜伏期間	主な症状	治療薬
ライム病	12～15日程度	発熱（微熱であることが多い）、倦怠感、慢性遊走性紅斑、稀に心筋炎・髄膜炎	テトラサイクリン系の抗菌剤
回帰熱	7～10日程度	発熱（39度以上）、筋肉痛、関節痛、倦怠感等	テトラサイクリン系の抗菌剤
ダニ媒介脳炎	7～14日程度	発熱、筋肉痛、麻痺、意識障害、けいれん、髄膜炎、脳炎等	—

北海道におけるマダニ媒介感染症報告数の推移 (2023年は28週まで)



- マダニ媒介感染症は**2020年に2006年以降最多**となる39人が報告された。
- 2020年以降**は高い水準で推移し、**年間30人以上**の報告が続いている。
- 2023年は回帰熱が第28週時点で10人と例年より早いペースで報告されている。

北海道におけるマダニ媒介感染症報告数の推移



※感染症発生動向調査のデータを用いて作成

- ・過去3年間、第28週以降は第28週以前と比べて10人以上多くの報告がなされた。
- ・2023年の第28週までの報告数は14人と、年間報告数が最多であった2020年と同じ高い水準を示した。

例年マダニ媒介感染症が増加する秋シーズンにかけて、より一層の注意喚起が必要と考えられる。

